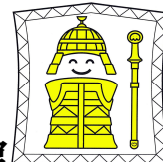


古墳館の活動と「子どもたちへのメッセージ」



熊本県立装飾古墳館

前回まで2回にわたり、博物館の役割や装飾古墳館の活動等について紹介しました。今回は、より具体的な博物館活動のほか、先生方から子どもたちへ伝えていただきたい「メッセージ」についてお話しします。

秋季企画「古代のガラス」展の準備

博物館の主な活動に企画展があります。古墳館では様々な企画展を行っていますが、11月20日から秋季企画「古代のガラス」展を予定しています。今回は、この企画展開催のために、どんな業務を行っているのか紹介いたします。

装飾古墳館では平成21年度から、所蔵資料をはじめ、熊本、佐賀などの古墳から出土した古代ガラスの調査を行ってきました。3ヶ年の調査期間を経て、今年度ようやくひとつの企画展を開催することとなりました。

この3ヶ年の調査の結果を資料として展示することになりますが、資料は古墳館所蔵資料のみとは限りません。他機関が持っていれば、借用の交渉を行い、資料の「収集」を行います。展示によって資料を傷める恐れがある時は、「保存」の処理・措置をすることもあります。

古代のガラスの調査

ガラスは、西アジアが起源と考えられ、次第に南アジアや東南アジアでも製作されるようになりました。

国内で出土するガラスのほとんどは、直径1~5mm程度の小さなビーズです。考古学では、これらを**小玉（こだま）**、**丸玉（まるだま）**と呼んでいます。古代の人が住んでいた家の址や、昔の王様のお墓などから大量に発見されます。ガラスのなかを拡大鏡で見ると、小さな気泡や、溶け残ったガラスの原料が見つかります。この気泡の形や、溶け残った原料の粒から、色々なことが判ります。

例えば、**鉛バリウムガラス**は、**鉛（Pb）**と**バリウム（Ba）**という元素が主成分として含まれるガラスの一種です。青色や紺色の発色が特徴ですが、このようなガラスは弥生時代に中国から伝わったことが判っています。古墳時代になると、黄色や緑色などの色とりどりのガラスが伝わってきます。これらは植物灰を溶剤として用



古墳から出土したガラス小玉

いた、ナトリウム (Na) やカルシウム (Ca) を含むソーダ石灰ガラスや、アルミニウム (Al) が多く含まれるアルミナソーダ石灰ガラスです。ガラスの主な原料は二酸化ケイ素 (SiO₂) ですが、発色材としてスズ酸鉛 (PbSnO₃) などの鉱物が微量に含まれるため、黄色や緑色に発色するのです。ソーダ石灰ガラスは東南アジア、アルミナソーダ石灰ガラスは南アジアで作られたことが判っています。

このような元素を調べる調査は、専門の機材を開発所有している大学や研究機関と連携して行います。ガラスの調査では、東京理科大学との共同研究で進めています。熊本で出土したガラスと東南アジアや南アジアのガラスとを比較した結果、同じ成分であるという結論に至りました。ここに、海を越えて伝わってきた古代のガラスという紹介が企画展で初めて可能となったのです。

子どもたちの学びの場として…。

このように博物館では、普段目に触れることの少ない特殊な調査機材を持っていますが、大学との共同研究でのみ使用されるわけではありません。博物館は生涯学習の施設ですから、様々な来館者のニーズに応える使命を持っています。

例えば、夏休みに行われる子どもたちの自由研究も大切な調査です。子どもたちの疑問は、時として驚くような成果に繋がることもあり得るのです。そうした疑問は、図書館で調べる他にも、博物館を訪ねて質問することで一緒に解決することができます。

◆◆ある夏休みに◆◆

ある年の夏休み、古墳館に男の子が珍しい色の粘土を見つけたと言って持ってきました。この男の子とご家族は、装飾古墳の顔料が粘土で描かれるということ、古墳館の展示や、玉名市大坊古墳の一般公開に行っていて知っていました。そこで男の子は、自分の庭で採れた珍しい色の粘土が「顔料ではないか？」と感じて持ってきたのです。そこで、土色計と呼ばれる土の色を測る器械で、古代の顔料と男の子が持参した粘土を比べました。結果、古墳時代ではなく、中世から顔料として使われる「肌色」と同じ色味を持つ粘土であることが判りました。

このように、博物館で所有する機材を用いて、子どもたちと一緒に調査を行うこともあります。また、子どもたちの疑問に答えられないときは、もっと詳しい他の博物館の学芸員に繋ぐこともできます。ある男の子は、自分の町にある古墳のことを調べたくて装飾古墳館にやってきました。その古墳にもっと詳しい学芸員は、熊本市立博物館にいたため早速連絡してより詳しく答えてもらいました。このように、博物館学芸員同士で、連携して子どもたちの疑問に答えることもできるのです。

夏休みに、貴重な体験を経て感じた疑問は、古墳館のみならず近くの博物館、資料館の学芸員を大いに活用してもらいたい・・・、それが、この夏の古墳館から子どもたちへのメッセージです。 お問い合わせ先 熊本県立装飾古墳館 TEL 0968-36-2151